

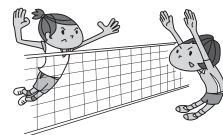


八景山町会 総合優勝

7月7日(日)梓川地区スポーツ祭2019が梓川体育館と梓川小学校を会場に開催され、昨年度の南北条町会続き、世帯数が40と少ない八景山町会が覇者に輝きました。

梓川地区スポーツ祭

2019



競技結果

	総合	シャッフルボード	囲碁ボール	ミニバレー
優勝	八景山(70点)	杏	八景山	下角
準優勝	下角(61点)	上立田	花見	八景山
第3位	上立田(60点)	横沢	南北条	南大妻



ミニバレー



囲碁ボール



シャッフルボード

前日まで肌寒い日が続いていましたが、当日は日差しもあり、汗ばむ陽気になり運動会日よりでした。

種目は短距離走(かけっこ)や綱引き、騎馬戦、大玉送りなどの馴染みの深い競技や、ダンスなど、助け合いと団結によって日頃の練習の成果を発揮する子どもたちは、生き生きとした表情をたくさん見せ、その姿に、観客席からも大きな声援が湧き上がりました。グラウンドをパワフルに駆け抜ける子どもたちから、たくさんの元気をもらうことができました。

今年の運動会のスローガン「運動会笑顔で協力あずさっ子」のとおり、暑さの中みんな笑顔で協力しながら、競技に取り組む子どもたちの姿を見ることができました。

梓川小学校
運動会



新元号令和に変わって初めての第47回梓川小学校運動会が、6月1日(土)に開催されました。

リーダー研修会

梓川地区子ども会育成会が主催する小学5・6年生の児童を対象にしたリーダー研修会が6月15・29日に梓川公民館で開催されました。

第1回目(15日)は、火のありがたさを学び、火おこしとちくわの燻製を作りました。燻製による味の変化に驚き、たくさん食べていました。

第2回目(29日)は、食生活改善推進協議会の方と一緒に梓川の特産であるリンゴを使った料理を中心に教えていただき、リンゴジャムなどをみんなで協力して作りました。3回目は8月7日～9日に、平成6年から交流のある三重県の御浜町の児童を招待して、交流会を開催します。



古代の火おこし

下立田町内球技大会

6月2日(日)、ふるさと公園マレットゴルフ場において、毎年恒例のマレットゴルフ大会が行われました。当日は曇り空ではありましたが、過ごしやすい気温で体力的にも余裕を持って、18ホールを回れたと思います。とは言っても、松本平有数の難コースはアップダウンの多いコースで、手を焼いている参加者もいました。

下立田町会では、今期最初の町会行事になる球技大会です。今までに色々な競技、形を変えながら行われてきましたが、ここ数年は男女年齢を問わず楽しめる、マレットゴルフに落ち着いた様です。7月の梓川地区スポーツ祭で、マレットゴルフが競技であった時代は、猛者が競う場でもあったようですが、今では家族や夫婦、気の知れた仲間たちと、そして昔の猛者もベテランとなって、スコアーを気にせず参加していただきました。競技が始まる前、参加された方は「毎年参加する人たちが変わらないねえ」と。確かに公民館部員とすれば、もっと



林間マレットゴルフ

多くの人たちに参加していただけだと願っています。何より参加してくださいの方が、楽しくこの時間を過ごしていただければ嬉しく思います。

カメラ片手に歩いていると、森林のコースから響く打球音と、時折湧く歓声で心地良い時間を過ごすことが出来ました。

きれいな街を目指して

去る5月26日(日)に梓川の各地区にて、地区の美化運動の一環として、「春の梓川地区ごみゼロ運動」が行われました。当日は午前5時30分という

朝早い開始時間でしたが、あつた人は眠い目をこすりながら、またある人は朝の散歩がてらに、子どもからお年寄りまで数多くの住民が参加しました。

参加して感じたことですが、幹線道路沿いでは相変わらず吸い殻や空き缶が多く回収されました。心ないポイ捨てが、周りの美観を損ねてしまうことをつくづく実感させられました。



きれいにゴミひろい

雑記帳



買い物や遠出等、毎日の足として欠かせない自動車。私は、大型・中型自動車を運転する仕事に就いており、自動車との関係は深い。その分、危ない日に遭うことも。悪名

高い「松本走り」交通マナー無視の車、ヒヤリとする場面など、本当に危なくて気が抜けない。

この間、職場で同僚が、「狭い道で対向車と向かいあつて、こっちは動けないし、相手も動かない。何とかやり過ぎしたけど本当に参った」と、さつき遭遇した事を、困惑した表情で話し出した。当然、私もそうした事態に遭ったので、よくある話の程度で聞き流した。だが、その会話を聞いた別の同僚がこう答えた。

「君も相手も、相手を思いやらない運転しているから、そうなるの」と言われ、はっとさせられた。同時に、日びの運転を思い返した。「右折したのに全然曲がれない対向車に道を譲ったか」「横断歩道に立つ人に気づいて一旦停止したか」「狭い道で対向車とすれ違えるように考えて運転したか」こうした事を普段から心掛けても、無意識に真逆の運転をして相手を不快な思いにさせてないかと考えさせられた。

人は相手を思いやれなくなると、相手も自分もそして周りにも大変な迷惑をかけるものだと、あらためて認識させられる出来事でした。